



各 位

「MMS（モバイルマッピングシステム）の活用による舗装工事の生産性向上」について

この度、当社は、東日本電信電話株式会社（以下、NTT 東日本）が自社のインフラ点検用に活用している MMS（モバイルマッピングシステム）により取得したデータを舗装工事の測量段階に活用するための現場実証を開始しますので、下記の通りお知らせ致します。

記

1. 背景

建設業界においては、就業人口減少による労働力不足が懸念されており、生産性の向上が大きな課題となっています。この度、当社では、舗装修繕工事における起工測量の業務改善に着目し、業務手法の抜本的な見直しを進めて参りました。

2. 取組みの概要

当社は 2019 年より業務課題解決のため、NTT 東日本と ICT ソリューションについて連携を開始しております。その一環として当社舗道部では、NTT 東日本がインフラ点検業務で活用している MMS 車両から取得される 3 次元点群データに着目し、舗装修繕工事の起工測量段階での適用可能性を追求してまいりました。

一般的な舗装工事においては、工事受注後、現場にて測量作業を実施しますが、NTT 東日本によって、既に取得された地域路線の 3 次元点群データを舗装工事の測量データとして活用することができれば、現地での測量が不要となります。

3. 検証及び実証について

NTT 東日本のインフラ点検業務用の 3 次元点群データが舗装工事において適用可能か検証した結果、舗装工事での適用に問題はないと判断できたことから、実際の現場において取組みの実証を行うことと致しました。特に、MMS で取得した 3 次元点群データは、衛星測位の性質上、Z 座標（高さ方向）の誤差が大きくなるという欠点があります。そのため、この欠点を補完するための施工方法による現場実証を実施する予定であります。

4. 将来の方向性

今後は、施工完了後の 3 次元点群データで現場を記録するとともに、工事の履歴データをデータベースに付与するというサイクルの構築を目指します。

本取り組みにおいて、従来の舗装工事における業務フローを抜本的に見直し、大幅な生産性向上を達成させるとともに、様々な産業とのパートナーシップを推進し、住み続けられるまちづくりに寄与してまいります。